

世界に誇れる極上の会津米づくり「目指そう 今年も特A 会津コシ1等米100%」

両沼地方稲作情報 第5号

令和4年7月8日

発行： 福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所 (電話0242-83-2112)

” 金山普及所 (電話0241-54-2801)

J A会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店

(有)山一米穀店、会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区

○適切な水管理を徹底しましょう。

○斑点米カメムシ類の対策を徹底しましょう。

⚠ほ場毎の生育差が目立ちます！

1 気象情報 (気象庁 東北地方 1ヶ月予報(7月9日~8月8日))

東北太平洋側では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

2 生育状況

主稈葉齢では、生育はほぼ平年並です。草丈は、平年並から平年より大きい状況です。茎数および葉色は、平年より少ない状況です。

表1：水稲作柄解析試験データ (会津地域研究所 7/5 時点) 移植日：5/19、栽植本数：20.8株/m²(30cm×16cm)

品種名		草丈(cm)	茎数(本/m ²)	主稈葉齢(葉)	葉色(SPAD値)
コシヒカリ	本年	56.9	630	10.6	36.1
	前年	58.7	695	10.8	37.0
	平年比	98%	90%	+0.1	-2.1
ひとめぼれ	本年	61.0	734	10.8	39.3
	前年	56.7	680	10.6	42.0
	平年比	106%	97%	+0.2	-2.7
天のつぶ	本年	64.1	615	9.9	40.7
	前年	59.4	634	10.2	43.0
	平年比	110%	92%	-0.1	-2.5

◇令和4年度の水稲はほ場毎の生育差が目立ちます！

以下のほ場では平年より生育が遅く、茎数が少ない傾向にあります。ほ場を観察し、ほ場毎の生育ステージに応じた管理をしましょう。

- ・根張りが悪い・葉色が淡い等の苗を移植したほ場
- ・5月下旬以降に移植したほ場

3 水管理(中干し~幼穂形成期~穂ばらみ期(減数分裂期)~出穂期)

- ・中干しは幼穂形成期前には終了し、その後は間断灌漑とします。
- ・低温(平均気温20℃以下、最低気温17℃以下)の場合は深水管理(水深10~20cm程度、幼穂が水に隠れるように)とし、幼穂を保護します。
- ・出穂前後の10日間は特に水が必要のため、徐々に湛水管理とします。
→以降は間断灌漑とし、少なくとも出穂後30日まで水を切らさないようにします。

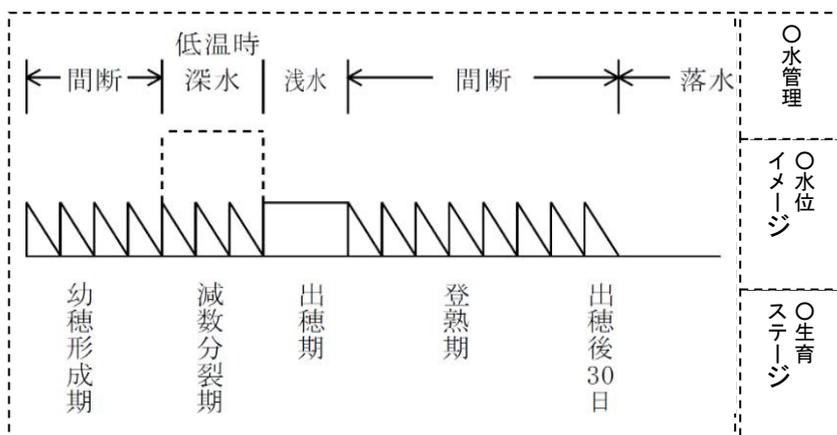


図1：生育ステージ毎の水管理

表2：幼穂形成始期と出穂期の平年値
(会津地域研究所)

品種名	幼穂形成始期	出穂期
コシヒカリ	7月15日	8月4日
ひとめぼれ	7月8日	7月29日
天のつぶ	7月11日	7月31日

◇登熟期の高温が予想されます！

登熟期前半（出穂後20日間程度）に高温が続くと、白未熟粒等の品質低下が懸念されます。高温が続く場合は、地域の水量を考慮し、湛水管理や飽水管理（ひたひた水状態）等で地温の上昇を抑制しましょう。

4 病虫害対策

窒素過多で過繁茂の稲は病虫害被害が発生しやすいため注意しましょう。

(1) いもち病

- ・葉いもちが発生したら直ちに薬剤防除（散布剤）を行います。
- ・穂いもち防除は予防が基本です。
→水面施用剤を使用する場合は出穂前に適期に散布します。
→散布剤を使用する場合は、穂ばらみ末期と穂揃い期の2回散布します。（※散布剤は周辺へのドリフトに注意）

(2) 斑点米カメムシ類

- ・出穂間際以降の畦畔草刈りはカメムシをほ場へ追い込むため、出穂10日前には草刈りを終えましょう。
- ・薬剤防除の場合、散布剤では乳熟期（出穂7～10日後）の防除を基本とし、その後発生が予想される場合は7日おきに追加防除しましょう。
- ・粒剤（水面施用剤）では穂揃期～乳熟期を目安に散布し、使用時期や止め水期間（7日）に留意しましょう。
- ・出穂の早いほ場に加害が集中しやすいため、早生品種や移植時期の早いほ場は注意しましょう。
- ・「天のつぶ」や「里山のつぶ」等、割れ粳の発生しやすい品種は加害されやすいため注意しましょう。
- ・**地域全体で斑点米カメムシの密度を抑制することが重要です。**



図2：葉いもちの病斑



図3：穂いもち発生ほ場



図4：会津管内の主な斑点米カメムシ。
アカスジカスミカメ(上)、
アカヒゲホソミドリカスミカメ(左下)、
ホソハリカメムシ(右下)

○農薬はラベル等を確認し、適正に使用しましょう。

○今年も節水に御協力お願いします。

○熱中症等の農作業事故に注意しましょう。

○農業保険(収入保険、水稻共済等)に加入しましょう。

◎次号の発行は8月中旬予定です